



414
A2416



内國債募集之儀ニ付太政官へ御上申案
 此度内國債ヲ起シ度者趣ハ第一其募集金額ヲ以テ
 種々ナル急要ノ事業即チ運輸ノ便ヲ圖クイヨリ農
 業製造等ノ喚動ニ至ル迄ヲ創設施設スルノ費用ニ
 充テ隨テ海内衆民并士族ヲシテ間接直接ト無ク或
 ハ多少ノ便益ヲ蒙ラシメ或ハ自立植産ノ道ニ就カ
 シメ其他諸銀行ヲシテ能ク存立シ因テ以テ大ニ内
 外ノ高賣上ニ裨益スル所ヲラシムル等種々ノ効績
 ヲ收メ度儀ニ有之右ハ去ルハ年以來兩度ニ建議仕
 候如ク運輸ノ便ヲ圖クハ實ニ本邦ノ急務ニテ爾未
 陸海トモ鐵道並其地ノ事業迄々着手ノ運ヒニ到
 リ候得共未タ以テ豆レリト為スベカラザル次第ニ
 付猶才此上彌々擴張シ候様致度即チ京阪間鐵道ノ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄



如キ其線路ヲ延ヘ大洋驛ニ及ボシ以テ琵琶湖通航
ノ概船ニ接シ又該湖ノ北岸江津若シクハ今津ヲ注
由シ文レヨリ直チニ敦賀港ニ達シ遠隔ノ地方一朝
彼此相交通運漕スルコトヲ得ルノ事ヲ始メ其地新瀉
港ノ疏鑿建築ヨリ自蘇便宜ノ地ニ於テ運河ヲ浚ヘ
漕渠ヲ穿チ及ヒ道路ヲ開キ峻阪ヲ平カニスル等ノ
事ニ至ル迄凡ソ運輸ノ事ニ於テ彼此相関渉スルモ
ノハ漸次見計ラ以テ丈々着手致度畢竟右建議中ニ
モ及後丁寧セル地ト運輸ノ開否ハ實ニ國家ノ隆替
ニ関シ就中本邦ノ如キハ天然地形ノ然ラシムル所
自カラ海運ニ於テ尤モ以テ注意經營ヲ要シ而シテ海
運ノ利ハ常ニ陸運ノ利アルニ因テ彌々其効ヲ見ル
モノトス曩日番メテ三菱會社ヲ保存護全スルノ策

ヲ首唱仕候モ更ニ別條ニテ無之候處事ニシテ其策
通中ニ遊ニ今日ノ盛大ヲ見ルニ至レリト雖モ惜カ
ナトト脈絡關係ノ物件即チ沿海諸港口并其各地
トノ諸通路ニ至ラハ猶方依然改良セズ或ハ碇泊積
載等ノ便ヲ妨ケ或ハ百貨ヲシテ港口ニ輻輳ヤシム
ルノ道ヲ障ヘル等ノ事アルヤ是レ特トニ將來ニ於
テ其盛大ヲ必スバカラザルノミナラス又烏コゾ詭
ク其衰頽ノ患無キヲ保タシメ故ニ苟モ之ガ計ヲ為
サバ前設鐵道ノ延線其他ノ如キハ到底至要途クベ
カラザルノ事タル萬疑ヲ容レザルベシ此外新規着
手ノ事業許多アリト雖モ差向キ秋田并開拓使管轄
地方ノ開鑛事業ヲ始メ奥羽地方ノ曠野ニ開拓ヲ作
シ堀割ヲ起シ及ヒ被ラシムルニ牧畜ヲ以テスルノ

大蔵省

學及ヒ全國中便宜ノ地ニ於テ適當ノ諸製造所ヲ建
設スル等ノ如キ復タ以テ急ニ着手セシムルベ
カラズ畢竟尙モ利源ヲ發達シ農業ヲ擴張シ製造事
業ヲ奨励シ以テ内地ノ物産ヲ増殖シ一國ノ富饒ヲ
益大ニスベキノ學ニ至ラハ本邦今日ノ急務タル丁
素ヨリ愚ノ奴ヲ待タス維新以來廢藩置縣等制度
風俗ノ大變遷ヲ最ケ海内ノ高工等或ハ方向ニ迷ヒ
或ハ職業ヲ失ヒ概シテ疲弊衰毒ノ色無シトセス就
中士族ノ如キ一旦福利ノ改革ニ際會シ政ニ注シ津
ヲ問フノ徒行クハ將サニ所在舉出セントスルノ勢
アリ是等族人ノ為メ何等就産ノ針路ヲ指示スベキ
ハ復タ事ノ必要達クベカザルモノニ可有之然而メ
全國中元入ノ場所就産ノ方法猶方稀少如此ノ是シ

キニ至ルハ則チ追々金銀ノ乏金下付ノ際ニ當テ
ハ之ヲ運用活動スルニ道無キノ至リ其勢學ケテ以
テ之ヲ扶手坐食ニ消糜スルノ外更ニ他術無カレバ
シ尚モ然ラバ其永ク自立ノ道ニ遠カリ遂ニ流亡ノ
困難ヲ取ルハ眼前必至ノ儀ニテ抑又慨然ノ至リナ
リ其他銀行ノ如キ當今如此ノ繁興ヲ致スト雖此是
又高貴製造ノ事業微々振ハザルノ致ス所遂ニ其資
本運用ノ道ニ乏シキヤ行クハ將サニ各銀行ノ存立
得テ保ツベカラザラントスルノミナラス現ニ所謂
資本ノ流動ヲシテ空シク凝滯塵壘ニ歸シテ止コシ
ムルハ一般ノ通弊ニシテ復タ事ノ惜ムベキモノニ
非スヤ故ニ今ノ際ニ當リ政府新法前段種々ノ事業
ヲ首唱興達スルハ則チ海内ヲ學ゲ既ニ職工其他

ノ因テ以テ生計ヲ保テ産業ヲ得富裕ヲ致スモノ幾
千萬ヲ以テ算フベキハ固ヨリ言ヲ待タス又七族ヲ
シテ或ハ其業ニ就キ或ハ其金ヲ入レ為メニ植産ノ
道ヲ得永ク自立カ食スル所アラシメ銀行ハ則チ為
メニ多少ノ借主得意此等ヲ列致シ資本運用ノ方ヲ
盡スヲ得以テ相當ノ利ヲ收メ公私ノ益ヲ營ミ而メ
一方ニ於テハ既己ニ商賣ノ繁昌ヲ致スノ實アルノ
ミナラス諸事業ノ創達上ニ於テ亦隨テ一層ノ盛大
ヲ見ルニ至ル等其便利務ゲテ言フベカラザルモノ
アリ然ラバ則チ今ノ際ニ當テ前段種々ノ事業ヲ創
起スル豈ニ一日モ忽カセニスベケンヤ但シ是等事
業ヲ創起スルヤ都テ莫大ノ費用ヲ要シ到底人民ノ
容易ニ從事スル能ハザル所必スヤ官ニ於テ百方経

管スベキ所タルハ既ニ前述建議中陳セル所ノ如
クナレ比目今費途極メテ多端ノ際既ニ通常経費ノ
能ク支給スル所ニ非ス其他別ニ適當ノ良方ヲ思フ
朽柄ニ付詰リ新タニ内國債ヲ募集シ以テ右ノ費用
ニ供シ候外有之同敷一體國債ノ件ニ付テハ前述建
議中ニモ陳述スル如ク其要一ニ會計出納ノ實況ヲ
深察シ併セテ其使用消却ノ方法如何ニ在ルモノナ
レバ現今ノ際別冊ヲ法書ノ通り募債施行致シ候俟
ハ隨分會計上ノ目途ニ於テ差支等無之ノミナラス
募集金額ノ儀ハ都テ之ヲ回産復生ノ資本ニ充用ス
ル中ハ則チ數年ノ後若クノ利分起生スルハ吾テ諦
セス所諸一國ノ財貨吃度充實シ政府ノ收入亦隨テ
増加スルハ自然ノ理勢ニテ幸以テ事機失フベカラ

ザル儀ト爲信仕候間此際断然御施行相成可然尤モ
前段種々ノ事業ヲ實際創起スルニ至テハ自カラ内
務工部其他ノ主掌官府アリ宜シク内閣ニ於テ文レ
ルノ要分アリテ要其成効ヲ期シテ止ムベシ抑此度
善債ノ手續ハ別冊ニ繕述セル如ク是迄トハ相替リ
一般人民ヲ喚動シ各自出金致サセ候譯一申シ且ツ
銀行ニ委任シテ此事ヲ取扱ハシムル等全ク新規ノ
儀ニ付テハ最初善債施行シ然ルベキ旨裁可奉委任
ヲ得及ヒ其事一般へ公布相成リタル上當省ニ於テ
次ヲ追ヒ文レク施行シ候通リ無之テハ施設ノ順序
ニ於テ不都合等不勘次第ニ付別冊概畧ノ調査次第
ケ案申仕候間御裁可ノ上御委任等相成候様致度勿
論右ニ漏レタル詳細ノ件々亦ニ實地施行上ニ於テ

更ニ上申ラ遊ケ又ハ伺ラ注テ施行スベキ儀モ可有
之候得共此節ノ儀ハ右様手續等相替リ居且ツ前述
施設ノ順序ハ既ニ歐洲諸邦ノ類例モ有之候下故只
管前段云々ノ裁可其他ヲ請フ爲メ先以テ別冊概畧
書并御委任状案御布告案トモ相添以段相成候間至
急何分ニ御指揮奉仰候也

明治十一年三月 日

大藏卿大隈重信

大政大臣三條實美殿

大正十一年
大隈侯
月

内國債募集公告文案

明治十一年 月 日 東京ニ於テ

第一國立銀行及三井銀行ハ謹テ左ノ件ヲ諸君ニ公
告ス

西行ハ今般大藏省ノ命ヲ蒙リ

大日本政府ノ内國公債募集ノ事ヲ務ラ要辨スルニ

付其募集ニ付テノ要款ヲ次ニ條記シテ以テ諸君ノ

陸續加入ヲラシムルヲ望ム

大日本政府ニ於テ此内國公債ヲ發行シ其募集ノ至

額ヲ使用シテ全國ノ殖産ヲ謀ルノ趣意及此公債之利

ヲシテ期ヲ速テ償却シ得ヘキノ目的且此公債募集

ノ事務ヲ西行ニ委任セラレタルノ要義ハ此公告ノ末段

大藏省

ニ於テ其命を状及御不達書等ノ字ヲ掲載スルヲ以テ
諸君ハ必ス之ヲ高知セラルヘキ事ト信セリ

要款

大日本政府大分(百分)利附ノ内國公債ハ明治十一年月日
ノ御布告并ニ同年月日大藏省ノ御布達ニ因テ附示セ
ラレタルモノナリ

此公債ノ呼高ハ通借卷千貳百五拾萬圓ニシテ公債証書ノ
種類ハ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス而シテ此証書ハ之レ
ヲ姓名記載ニスル比又ハ讓渡自由ニスル比債主即チ
引受人ノ隨意タルモノナリ

發行ノ價直ハ百圓ニ付八十圓トス故ニ債主即引受人
ハ通借ハ拾圓ヲ拂フテ年々大圓宛ノ利足ヲ得而シテ
此公債之拂ノ籤ニ當レハ實額百圓ヲ得ルノ割合ナリ

此公債ノ拂戻シハ當明治十二年ヨリ向二十五年ノ期限
ニシテ其元金ハ本年ヨリニ々年振置三々年目即チ明治
十三年ヨリ倍高ニ割合抽籤ノ方法ヲ以テ當リ籤ノ籤
書ニ對シテ其券ノ分ヲ拂戻シ而シテ明治三十五年ノ末ニ
至リテ皆高ヲ消却シ尽スベシ

此公債証書之金拂戻シノ為メニ行フ所ノ抽籤ノ方法ハ其
年ノ十月中第一國立銀行又ハ三井銀行ノ本店ニ於テ
大藏省國債司ノ官復ト地方官廳ノ官復ト其他身柄
ノ人ニテ此公債証書ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ其
中會ヲ乞ヒ抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ証書ノ記号番
号ヲ公定シ當リ籤ノ番号ハ新聞紙ヲ以テ之レヲ公告シ
而シテ其証書ニ對スル元金ハ其年ノ十二月初迄ニ之レヲ拂戻スヘシ
此公債ノ利足ハ証書類面百圓ニ付壹々年大圓宛ノ割合

トシ初回ノ利息拂ハ来ル明治十二年六月ニ於テシハ爾後毎
年兩度(六月十月)ニ証書面ニ付シタル利息ノ小札ト引換ニ之
レヲ拂渡スベシ

故ニ此公債引受方申込ノ節ニ拂込ムヘキ手付金及第一
割拂ヨリ勞ニ割拂込ノ拂込金ニ係ル利息ハ其拂込ミタル
月ヨリ當年十二月三十一日迄月割ヲ以テ計算シ其月十五
日迄ノ入金ハ半年々月行十五日以後三十一日迄ノ入金ハ翌月
分ヨリノ利息ヲ割引シテ本人ニ拂ヒ渡スベシ

但明治十二年六月ニ於テ拂渡スヘキ利息ト云凡此ノ
半年間ハ割拂ノ入金中タルヲ以テ本條ト比シテ其
入金ノ月割ヲ以テ小札ト引換ニ拂渡スベシ

此公債ノ元利拂戻シ方ハ都テ兩行本支店并ニ兩行ト為換
取但ノ約定(コレスポンデンス)アル各地方ノ銀行又ハ諸會社ニ

於テスベシ

此公債ノ引受ヲ望ム諸君ハ當明治十一年八月三十一日迄ヲ
限り次ニ掲示スル第一書式ニ從テ額面五拾圓以上(公債證
書ノ種
類ニ邊)

何程ニテモ申込ノ書面ヲ作り且公債ノ高百圓

ニ付八圓宛ノ手付金ヲ添ヘテ兩行ノ本店并ニ兩行ト

為換取組ノ約定アル各地方ノ銀行又ハ諸會社ニ申出ツ

ベシ(申込ノ場所地名ハ下文ニ詳カナリ)

兩行本支店及各地方ニアル代理店ハ右ノ申込ヲ得其手

付金ヲ受取レハ次ニ掲示スル第二書式ニ從テ手付金受

取書ヲ本人ニ發付スベシ

此公債ノ引受方申込ハ本年八月三十一日ヲ以テ期限トスル

ニ付望人ノ都合ニヨリテ右ノ時日前ニ申込ヲ為シ手付金

ヲ拂込メハ其拂込ミタル月ヨリ十五日
十五日
十五日
後ナレバ翌月分
期限
三十一日

日^云迄ノ利息トシテ年六分ノ割合ヲ以テ手付金ノ現高中日^云之レヲ減却シテ本人ニ拂戻スベシ

兩行ニ於テハ申込期限ノ日ニ至リテ全般ノ申込高ヲ總計シテ此公債ノ呼高ニ割付ケ其割付ケタル金額ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ申込ノ本人ニ通達スベシ故ニ此申込ノ高公債呼高ニ超過スレハ總体ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ之レヲ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂出金ニ廻シ置クベシ尤モ其時ノ都合ニヨリテハ別ニ方法ヲ設ケテ之レヲ減却スル一モアルベシ

此公債引受方申込ヲ為シテ其割付ケノ通達ヲ得タル諸君ハ左ノ割合ヲ以テ割拂ノ出金ヲナスベシ

- 一 引受方申込ノ節手付金 明治十一年 八月三十一日迄 金 八 四

例ハハ公債呼高百圓ニ付

一 第一割拂出金 明治十一年 十一月三十日迄 金 貳拾貳圓

一 第二割拂出金 明治十二年 二月廿八日迄 金 貳拾五圓

一 第三割拂出金 明治十二年 四月三十日迄 金 貳拾五圓

合計 金 八拾四

此公債ノ割付高定マリタル後ハ債主即チ引受人ノ都合ニヨリ第一割拂ノ時ニ於テ第二又ハ第三迄ノ割拂ヲモ為スヲ得ベシ然ルトキハ其現入金ヲ折込ニタル月ヨリ 六月五日前ナレハ半月分 十五日後ナレハ翌月分 迄ノ利息ヲ年六分ノ割合ヲ以テ減却シテ本人ニ拂戻スベシ

若シ又申込ノ節手付金ヲ差入レタルモ第一割拂ノ期日ニ其拂込ノ怠ルカ又ハ第一割拂ヲ為スモ第二第三ノ割拂ヲ其期日ニ怠リタル人アラハ此公債ノ割付ケヲ除キ其前ニ拂込ミタル金高ハ都テ本人ノ損失タルベシ

第一割拂出金ヲ為ス時ハ其金額ト共ニ手付金受取書
ヲ差出スベシ然ルトキハ引換ニ第三書式ニ從テ公債
假証券ヲ交付スベシ第二割拂出金ヲ為ス時モ其金額
ト共ニ前ノ假証券ヲ差出スベシ然ルトキハ引換ニ第四書
式ニ從テ同ク公債假証券ヲ交付スベシ第三割拂ノ時
於テハ引換ニ公債本證書ヲ交付スベシ尤モ此本證書若シ
其時ニ出来セザレハ公債拂済假証券ヲ渡シ置キ追テ
時日ヲ定メテ本證書ト交換スベシ
若シ債主即チ引受人ノ都合ヲ以テ第一割拂ノ時ニ第
二割拂ノ分ヲモ入金スレハ其期ニ應スル公債假証券ヲ
交付シ第三割拂ノ分迄モ入金スレハ公債拂済假証券ヲ渡
シ置キ追テ時日ヲ定メテ本證書ト交換スベシ
此公債證書ノ拂込金皆済ニ至ラスレテ公債本證書ヲ

受取ラカル以前タリト雖第一割拂出金ノ假証券ヨリシテ
當人ノ都合ニヨリ隨意ニ賣買讓受スルヲ得ベシ(外國人ヲ
除キ)
但讓渡人ハ証券ノ裏面ニ讓受人ノ住所姓名ト自分
ノ姓名トヲ記載シ且之レニ調印スベシ
此証券ノ讓受賣買ハ前條ノ如ク所持人ノ自由ニ任ス
ト云ヒ其後ノ割拂ノ出金ハ必ス引受方ヲ申込ニ付
金ヲ差入レタル地ノ銀行ニ於テスベシ
右ノ都合ナルヲ以テ此公債引受方手付金ノ受取書及
第一割拂出金ノ假証券迄ハ當人ノ望ニ從ヒ何れニテ
モ之レヲ分割スルヲ得ベシト云ヒ申込高千円以上ノ者ハ
一枚ノ假証券高五百円以下ニハ區公セズ千円以上ノ者
ニモ百円以下ニハ區公セザルベシ
若シ此証券ヲ盗ニ取ラレ又ハ紛失シ又ハ流焼失セシ者

アラハ其証券ノ番記号証券ノ最初ノ名宛人及其證
券ヲ譲受ケシ人ノ姓名等ヲ認メテ速ニ其証券ヲ発行シ
土地ノ銀行ニ告知スベシ銀行ハ本人ニ就テ此証券ヲ失フ
タルキ續テ詳明セシメ且其次第ヲ新聞紙ニテ公告シ三
ヶ月ヲ経テ尚此証券ヲ見出サザルハ兩人以上ノ証印
アル証書ヲ以テ其事ヲ保証セシメテ代リ証券ヲ渡スベシ
但此時間中ニ割拂由金ノ期ニ際スルコトアラハ此令
ハ本人ヨリ別段ニ入金セシメテ銀行ヨリ假預書ヲ
渡し置キ追テ本條ノ決定ヲ俟テ本キ續ニ
復スベシ

此公告文及諸書類ノ書式ハ別ニ印刷シテ一冊子ト
為シ兩行ノ本支店宛各地方ノ代理店ニ貯有スル
ニ付望人ハ何時ニテモ之ヲ求ルヲ得ベシ

若シ債主即チ引受人タルベキ諸君此公告ノ趣旨充
分ニ了解セラレザルコトアルカ又ハ此公告ノ屬スル事務
ニ付別ニ質問セラルベキ事アラハ兩行本支店宛
ニ各地方ノ代理店ニ来リテ諮詢アルベシ

右ノ通大藏省ノ允許ヲ経テ公告仕共事ノ

第一国立銀行
三井銀行

第一書式 内國公債引受方申込証書

券番

今般内國公債募集ノ義ニ付明治十一年 月 日
 附テ以テ貴行ヨリ公債相取候取款書ノ号ニテ
 掌シ置額 口ノ高引受可申ニ付右号附金トシ
 ラ差割ノ割合ヲ以テ金 口御拂入申置候間額
 面 口ノ公債証書批者ハ御配付有之度候モ
 此公債引受方ニ就テハ明治十一年 月 日大藏
 省ヨリ頒布セラレタル内國公債發行條例及貴行
 ノ公告文ノ要旨ハ認テ遵奉可致候仍テ引受証書
 差出候番如件

明治十一年 月 日

銀行御中

姓 名 印

大藏省

券二書式 手附金受取書

券番

一金

右者當明治十一年 月 日大藏省ヨリ頒布セラレ
タル内國公債發行條例ニ遵ヒ内國債募集ノ内
費額 〇ノ高引受方御申込ノ手附金トシテ前
書ノ通御拂入相成ニ受取申候當相違無之候迄
テ第一割御出金ノ節其金額ト夫ニ此受取書御
持参可相成候也

明治十一年 月 日

姓名 銀行

第三書式 公債假証券

券号

一金

右者明治十一年 月 日太政官券 号ノ公布ニ從
ニ大藏省ニ於テ募集スル内國公債ノ内何所何丁目住何
ノ誰ノ引受タル公債証書高 〇ニ對スル第一割御
出金迄ハ成規ニ從テ書面ノ通入金ニタルト相違ナキ
ニ付其証トシテ其券状ヲ付與スルモノナリ

明治十一年 月 日

銀行

此券状ヲ譲リ渡サント欲セハ裏面ノ枠内ニ讓受人ノ
住所姓名ヲ記シ此証券ノ所持人(讓渡人)記名調印
シタル上ハ何人ヲ論セズ(外國人ヲ除クノ外)之ヲ授

明治十一年 月 日

銀行

此券状ヲ譲リ渡サント欲セハ裏面ノ枠内へ譲受人ノ住所姓名ヲ記シ此証券ノ所持人(譲渡人)記名調印シタル上ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)之ヲ授受スルヲ得ヤシ
公債本証書ノ調成シタルトキハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其由ヲ公告スルニ付其節此証券ヲ所持スル人ハ之ヲ持参シテ本証書ト引換ヲ乞フベシ

裏面雛形

譲渡日附 譲受人住所 譲受人姓名 譲渡人記名調印

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |